協議会用資料

5年社会科研究協議会「多角的に社会的事象を捉える子どもの育成」

和歌山大学教育学部附属小学校　中山　和幸

1．知識でつなぐカリキュラム・デザイン

○授業者の問題意識

本単元は以下のように，同一教科内，教科等横断の視点でカリキュラム・デザインを行っている実践である。

そのように実践した理由は，「(省察性を働かせながら）多角的に社会的事象を捉える子どもの育成」をめざす上で次のような問題意識があるからである。

子どもが多角的に社会的事象を捉えるためには，様々な立場の人の思いや願いを知っていたり，社会の仕組みについての一定の知識をもっていたりすることが必要不可欠である。つまり，**知識の量が決定的に重要**である。

例えば，本単元で言えば，「地産地消のしくみ」「食料生産の様子（生産者の工夫や努力）「貿易の仕組み」「生産と消費の関係」「フードマイレージ」「耕作放棄地の問題」「生産者の減少」などについての知識である。**知識が豊富であればあるほど，それらの知識を活用した多角的な視点に立った価値判断や意思決定ができる可能性がある。**

しかし，限られた時間の中で，子どもたちが知識をためていくことは難しい。授業以外で（例えば家庭学習で），子どもたちが行う一人学習をとおして，知識をためていく実践は数多くあるが，一人学習の支援は，簡単ではないし，様々な子どもを取り巻く家庭の事情があり，全ての子どもが充実した一人学習を行えるわけではない。

そのように考えるとやはり**基本は学校の授業をとおして，学級全員の共通体験の中で，子どもの知識を豊富にし，多角的な視点に立った価値判断や意思決定ができるようにしたい。**

社会科だけでは，時数に限りがあるが，単元内でつながる知識，単元間でつながる知識，教科等を越えてつながる知識をイメージしたカリキュラム・デザインを行うことで，上記のような問題が解決し，「(省察性を働かせながら）多角的に社会的事象を捉える子どもの育成」を実現できるのではないかと考える。

※矢印は一方向になっていますが、実際は双方向の知識のつながりを意識し、デザインします。

②知識でつなぐカリキュラム・デザインの実際

特別活動「食料自給率について考えよう」
（３時間）
【活用される知識】
・外国からの輸入が多くなれば，**フードマイレージ**が高くなる。フードマイレージが高いと環境への負荷が高くなり，持続可能な社会の実現につながらない。
・**エシカル消費**とは，環境，人・社会，地域に配慮した消費の考え方であり，みんなの幸せにつながる。
・**一人ひとりの消費者が**環境，人や社会，地域のことについて考えることで**持続可能な社会の実現につながる**。
・**食料自給率が低い**と輸入がストップした時に，日本の**食料が足りなくなる**。
・日本の**輸入が多いと他の国に食料が回らなくなる**。
・日本は機械をたくさん輸出している分，食料の輸入は多い方が外国との**貿易摩擦**が起こらない。

社会科「わたしたちの食生活を支える食料生産」
（18 時間）
【活用される知識】
〇米作り（９時間）
・日本は**地形や気候を生かした食料生産**を行っている。
・**日本では，外国のように大規模農業で大量に食料を生産することはできない**。
・外国では，大規模農業の実施や機械化によって，コストを抑えた食料生産が可能になる。その結果，**外国産の食料は安価**になる。
・**圃場整備**や**機械化**で農作業が行いやすくなる。
・農薬や化学肥料を使いすぎると，安心・安全な食料生産ができない。
・**品種改良**を行い，生産者や消費者に喜ばれるような新しい品種が日々研究されている。品種改良には長い年月を要する。
・食料の**生産量**と**消費量**には深い関係がある。つまり，生産と消費には深い関係がある。

〇水産業（9 時間）
・**とる漁業，守り・育てる漁業**の両方が水産資源を守りながら漁業を続けている。
・海の環境と水産資源には深いかかわりがあることから，**海の環境を守る**ことが大切である。

②社会科「わたしたちのくらしと工業生産」
【活用される知識】
・それぞれの国が必要なものを補いあうのが**貿易**のはたらき。
・自分の国の利益ばかりを考えた貿易をすると，**貿易摩擦**が起こる。

問題解決:「地産地消を広げよう！どのような生産や消費をしていけばよいのだろうか。」

課題の設定　**情報の収集**　**整理・分析**　**まとめ・表現**

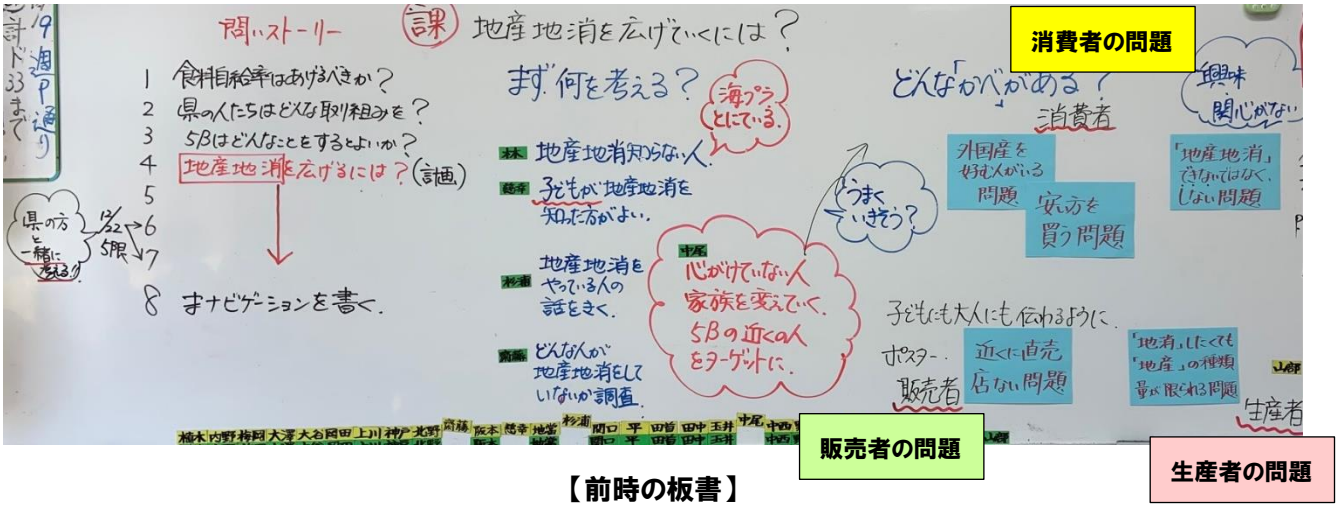
②CHANGE（総合的な学習の時間）
「海洋プラスチックごみ問題を解決しよう」
【活用される知識】
・「**生産者**は，**消費者のニーズ**に応えるための工夫や努力をし，生産している」
・問題の解決には，**協力者**が必要である。

③家庭科「持続可能な暮らしへ　物やお金の使い方～」
活用される知識
・「**消費者**が品質のよい物や環境や資源に配慮した物を選ぶと，そのものはたくさん作られるようになり，世の中に出回るようになる」

2. 本時の課題について

○本時の課題

身近な人に地産地消を広げよう！ わたしたちには、どのような消費を心がける必要があるだろうか？



【前時の板書】

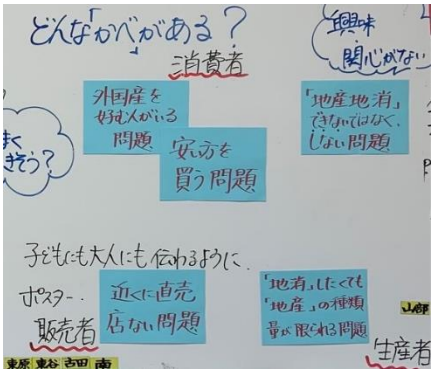
前時には，地産地消を広げていきたいという願いをもち始めた子どもたちは，まず地産地消が広がらない原因（「地産地消を広げるにはどんなかべがあるか？」）について考えた。そこで，子どもたちから次のようなことがその原因として挙げられた。

・外国産を好む人がいる。　・安い方を買う人がいる。
・「地産地消」を「できない」のではなく「しない」人がいる。
・「地産地消」をしたくても，近くに便利な直売店がない。
・「地産地消」をすると，「地産」できるものの種類や量に限りがある。

そして，原因には，「消費者」「販売者」「生産者」にかかわる問題といった，大きく３つのものに分類できるということに気が付いた。

その後，前時の板書にある「問いストーリー」を考え，

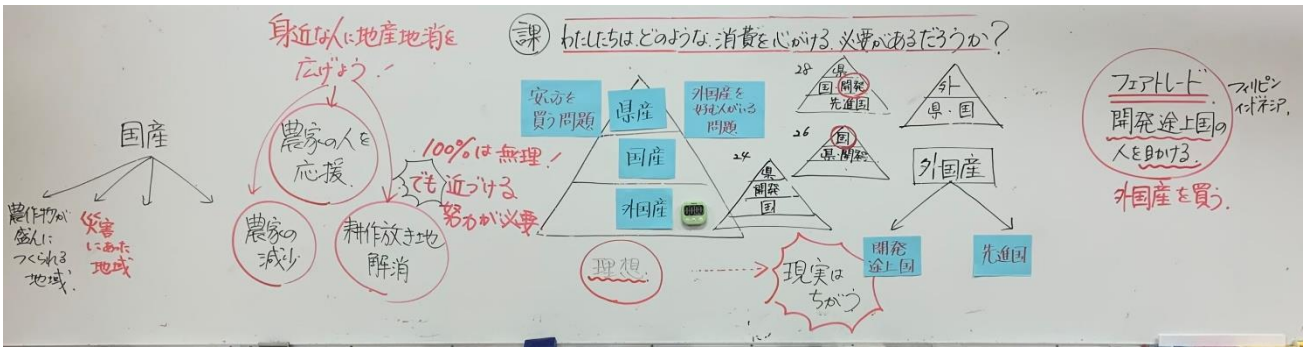
第５時：消費者の問題について考える。→本時の課題へ
第６時：消費者の問題について考える。
第７時：海草振興局の方と一緒に生産者や販売者の問題について考える。
第８時：単元を振り返る。（まなびゲーション）を書く。
という計画に決まった。



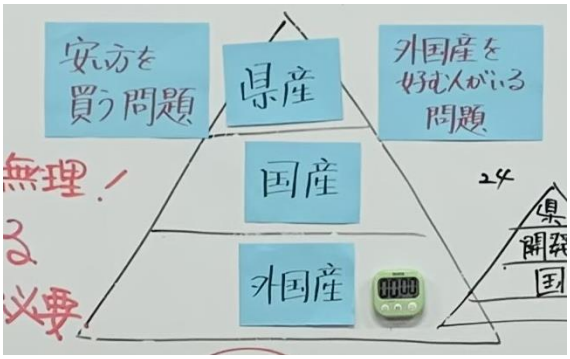
※このあと，「地産地消を身近な人に広げたい」という子どもの願いに沿う単元になるよう第８時に家族に伝える準備をし，第 9 時に単元を振り返るというように単元を修正した。

3. 子どもの省察を引き起こす教師が行う「しかけ」

①表出された考えのつながりや構造が子どもにとってわかりやすいように，構造的に板書する



【本時の板書】



本時においては，考えの構造が子どもにとってわかりやすいように板書にピラミッドチャートを用いた。

なぜピラミッドチャートなのか！？

それは，「どのような消費？」という学習問題（課題）で学習を進めた時，開かれた学習問題（課題）であるために，子どもの思考の拡散が予想されたからである。何を言ってもよい。逆に何を言えばよいのか分からないとなってしまうことが予想されたため，授業が焦点化されないのではないかという心配があったからである。課題を焦点化させる方法ももちろんあるが，今回は子どもの問いをそのまま生かして，学習問題（課題）を設定したため，ピラミッドチャートを使うことで，子どもの思考の拡散を防ぐことができるのではないかと考えた。

なぜ，「県産」「国産」「外国産」というワードで構造化したのか！？

それは，前時までに「外国産＝悪」であるという認識がクラス内に広まってきたからである。「多角的に社会的事象を捉える子どもの育成」を目指した実践のはずが，「外国産＝悪」という認識の偏りを生んでしまっていたからである。後述の「本時で扱った資料」にもかかわるが，フェアトレード商品や開発途上国の生産者のことがわかる資料を入れているのもそのためである。本時の学習をとおして，「外国産＝悪」ではなく，「外国にも生産者がいて，外国産は外国の生産者の工夫や努力がつまった生産物である」ことに「気づき」そのことを視野に入れた「決める」（価値判断・意思決定）を行うことができるようにしたいという教師の願いがあったからである。

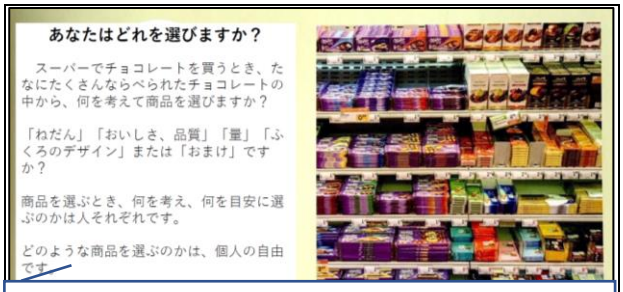
そして子どもの中で考えの再構成が起こり，再構成の結果が子どもにも教師にも分かりやすくなり，子どもや教師が学習をとおして再構成された考えを省察することができるよう，「県産」「国産」「外国産」のワードで構造化するのがよいと考えた。

②ロイロノートの資料箱に問題発見につながる資料を入れておき，子どもが自ら資料を活用することで考えの再構成を行うことできるようにする。（気付く「しかけ」）

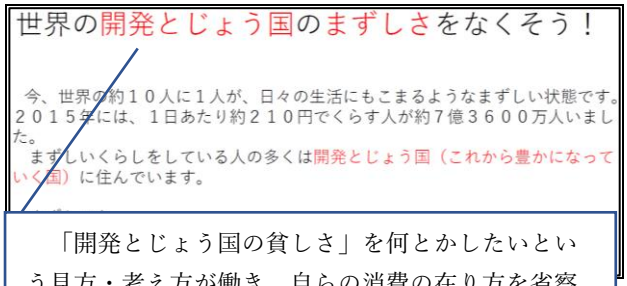
小学校社会科授業において，これまでは，教師が子どもの学びの質的転換が起こるように，タイミングよく資料を提示していることが多かったように感じる。子どもの立場で考えると，教師に資料を活用させられた感が強くあるのではないだろうか。探究の学びにおける理想は，子ども一人一人が自分で収集した資料を活用しながら，学びを進めていくことであるかもしれない。しかし，学級の子どもたち一人一人が収集した資料を教師が目をとおし，内容を把握し，且つ，子ども一人一人が準備した資料の内容を学級の仲間に共有し，理解してもらうことは理想ではあるが，全ての時間でそのような授業をすることは難しい。

本実践では，「資料を活用させられている状態」と「自らが用意した資料を活用する状態」の間をねらっている。すなわち，「資料は教師がある程度準備するが，ロイロノートの資料箱の中に準備された資料を子どもが自由に閲覧し，自分にとって必要で意味のある情報を選び，活用する状態」を具現化できるように挑戦しているものである。本時においては，子どもは自らの見方・考え方を働かせながら，資料を読み，必要に応じて活用する資料を取捨選択し，自分の考えを伝えるためのツールとして活用する姿を具現化したい。

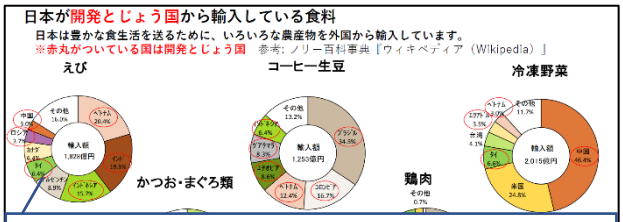
子どもが**「地産地消」のよさを改めて確認した上で**新たな視点を取り入れながら探究を進めることができるようにしたい。



本時においては、「どのような商品を選ぶのかは、**個人の自由であるからこそ**、自分は〇〇な消費をする」と考えることができるようにしたい。

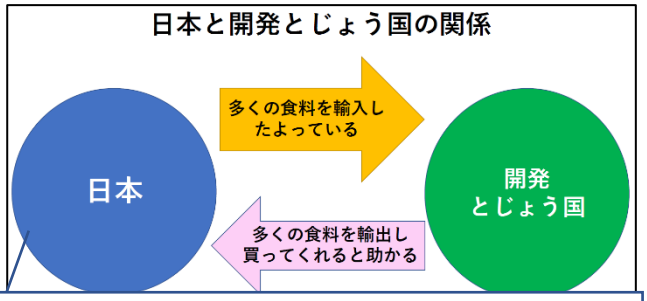


「開発とじょう国の貧しさ」を何とかしたいという見方・考え方が働き、自らの消費の在り方を省察する子どもを具現化したい。



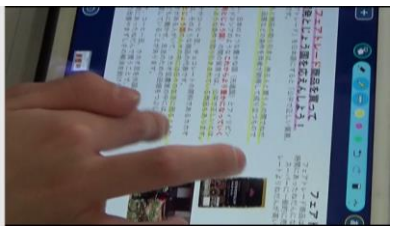
日本は「開発とじょう国」からの食料輸入に頼っている面があることを実感させたい。

「外国産＝悪」ではなく，日本が外国産を輸入することで、外国の生産者や外国の人々が救われる事例があることに気づかせたい。



「地産地消」を進めることには賛成だったけれど、そうすることで日本と開発とじょう国との関係をくずしてしまうことになり、開発とじょう国の人にデメリットが出てくるというジレンマに気付くことで子どもの見方・考え方がより多角的になるようにしたい。

○資料の閲覧場面



○資料活用の場面

ここに問題ってやつで中国が発展途上国に入っているみたいなことが書いてて・・・。
中国って貧しそうなイメージってないから・・・。
先進国？豊かなところは、やっぱ発展途上国のためにも、（消費）しないとダメかな・・・。

これやったらさあ。
外国産と日本産があるけど、398 は外国産で、日本産は 1280 円で、結構値段違うから。
値段で決める人は外国産で選ぶから。日本産の自給率は低くなると思う。

例えば、ここやったら。
「米国」って書いてあるから・・・。
開発途上国じゃない国のは絶対変わんでいいってことじゃないけど…。
開発途上国のを買った方がいいと思う。

（資料を見ながら）
フェアトレードっていうか貿易問題を…。
環境をよくするのか、貧困をなくすのかみたいな。
どっちかな…って。

③ペア対話やグループ対話を行い，各々の考えを聞き合うことで，考えを再構成できるようにする。
（決める「しかけ」）

○どのような消費を心がける必要があるのか？　～国産か？外国産か？～

⇒

⇒

○どのような消費を心がける必要があるのか？　～国産か？開発途上国産か？～

⇒

⇒

○どのような消費を心がける必要があるのか？　～みんなは果たして地産地消をするのか？～

⇒

⇒

⇒

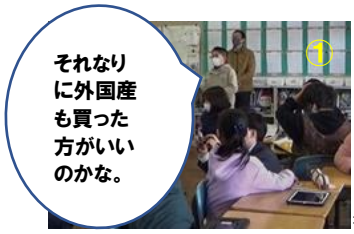
⇒

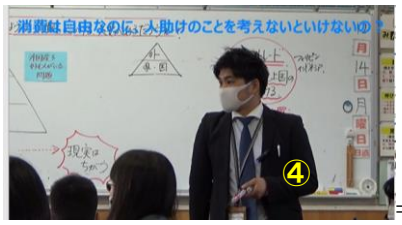
○どのような消費を心がける必要があるのか？　～見た目？安さ？品質？おしさ？～

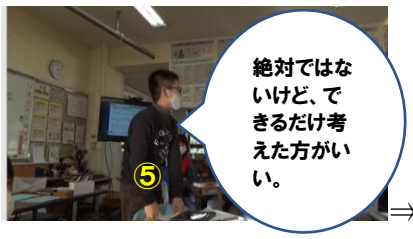
⇒

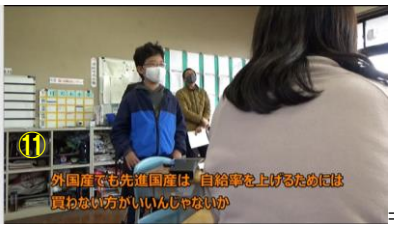
⇒

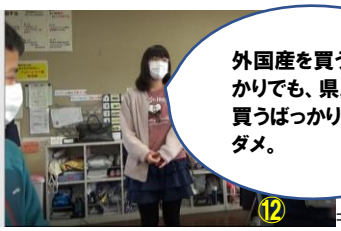
○どのような消費を心がける必要があるのか？

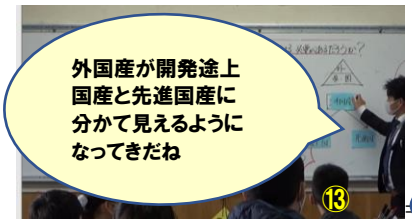


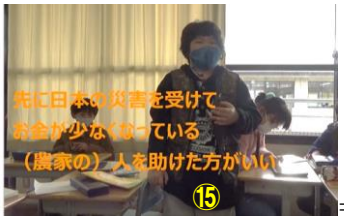


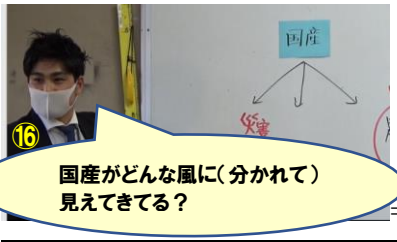


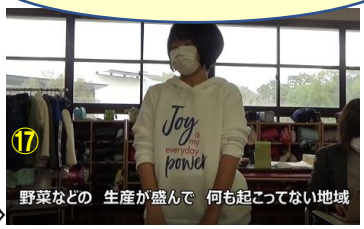








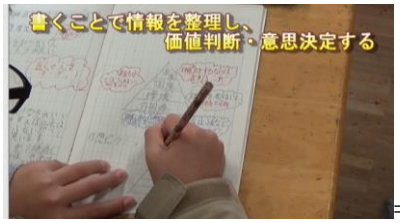


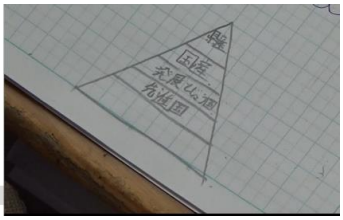


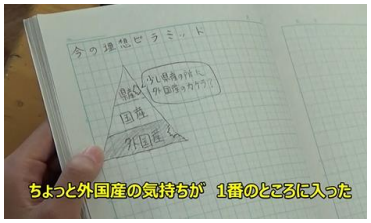
対話が「決める」しかけになるだろうと考えたが，実際は「気づく」しかけにとどまり，新たに「決める」場面が必要になった。

④問題解決の途中で書く活動を取り入れ，価値判断・意思決定したことを整理できるようにする。

（動く「しかけ」）





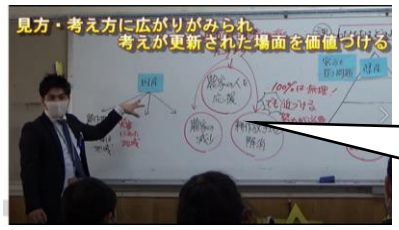


ピラミッドチャートでもう一度考えをアウトプットし、価値判断・意思決定を促す。

⑤教師による価値づけを行う。（動く「しかけ」）

本時に置いて，見方・考え方に広がりが見られ，考えが更新された場面について板書を用いて解説し，子どもの学び方を価値づけることができるようにする。

すごかったなって思うのは、最初外国産って一個にしか見えてなかったけど、ちがったように見えてきたでしょ？
ここがすごかったなって思います。
これを「**見方が変わる**」って言います。



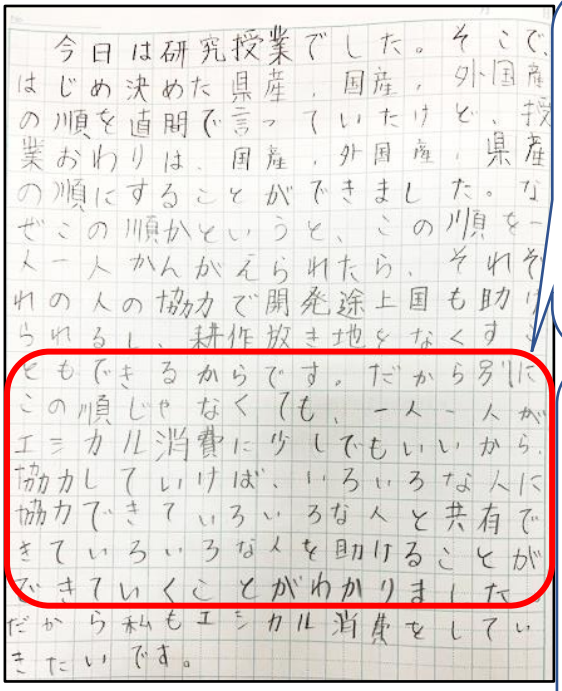
「ちがう立場で見る」っていうのをみんなは勉強してきたんだけど、これは少しちがって…、1つだったものが複数に見えてくるっていう「見方の変わり方」をしたね。

省察していない状態の子どもに対して，省察を促すような「しかけ」を**省察を引き起こす「しかけ」**と考えるならば，教師による価値づけは，省察が引き起こされた**結果を省察させる「しかけ」**と考えることができる。このような活動を行い，教師が子どもの学びに対する評価を返していくことで，子ども自身が改めて自己の学びを省察し，子どもの学習の改善が行われるのではないかと考える。

また，省察が引き起こされた結果を省察させる活動として，子ども自身の自己評価（振り返り）も大切であると考える。

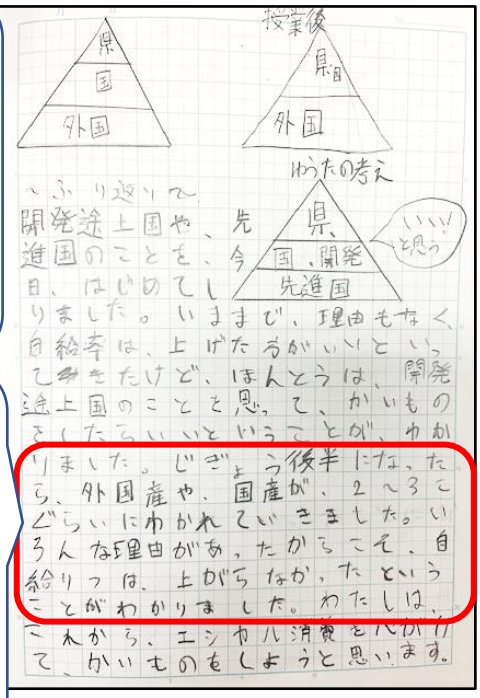
4. 省察が引き起こされた結果を子どもがどう省察したか（振り返り）

①本時の振り返り（授業前に比べ多角的な視点で社会的事象を捉えるようになったと考えられるところ）



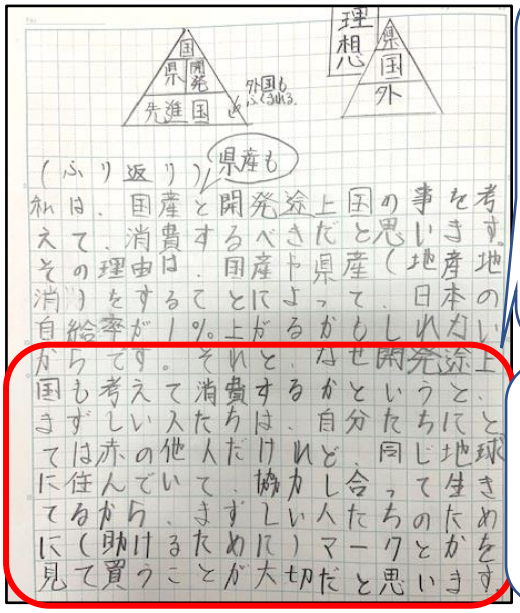
今日は研究授業でした。そこで、はじめ決めた県産，国産，外国産の順を直間で言っていたけど、授業おわりは、国産，外国産，県産の順にすることができました。なぜこの順かというと、この順を一人一人がかんがえられたら、それぞれの人の協力で開発途上国も助けられるし、耕作放き地をなくすこともできるからです。だから別にこの順じゃなくても、一人一人がエシカル消費に少しでもいいから、協力していけば、いろいろな人に協力できていろいろな人と共有できていろいろな人を助けることができていくことがわかりました。だから私もエシカル消費をしていきたいです。

座席表 12 番
（ビデオ 22 番）
一人一人がエシカル消費を心がけることで，（総合的に）いろいろな人のためになる消費になる。

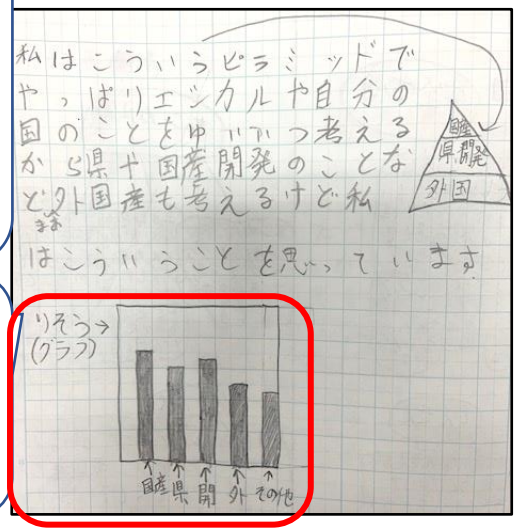


ふり返って
開発途上国や、先進国のことを、今日、はじめてしりました。いままで、理由もなく自給率は、上げた方がいいとおもってたけど、ほんとうは、開発途上国のことを思って、かいものをしたらいいということがわかりました。じぎょう後半になったら、外国産や、国産が、2～3こぐらいにわかれてきました。いろんな理由があったからこそ、自給りつは、上がらなかったということがわかりました。わたしは、これから、エシカル消費を心がけて、かいものをしようと思います。

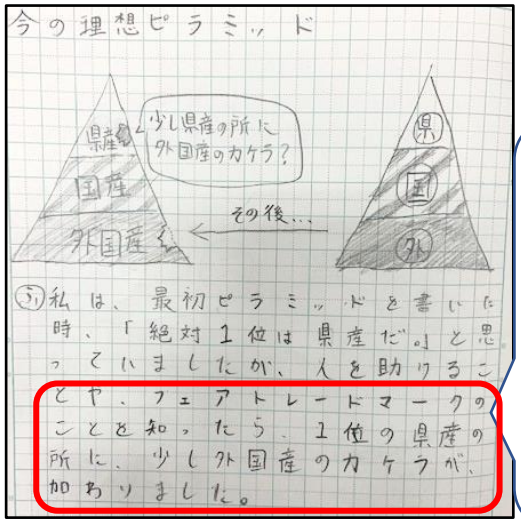
座席表 24 番
（ビデオ 20 番）
外国産や国産がひとまとまりではなく，複数に見えるようになった。みんながいろいろな視点で考えるからこそ，自給率はそう簡単に上がらない。



座席表 28 番
（ビデオ 25 番）
外国の人であっても同じ地球に住んでいる人を応援するという視点で消費をすることが大切。

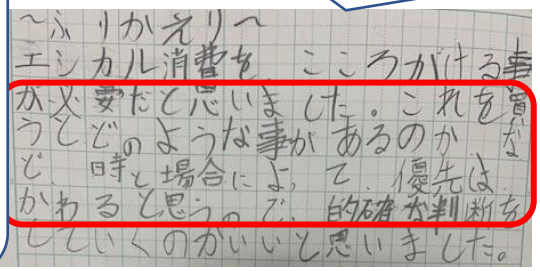


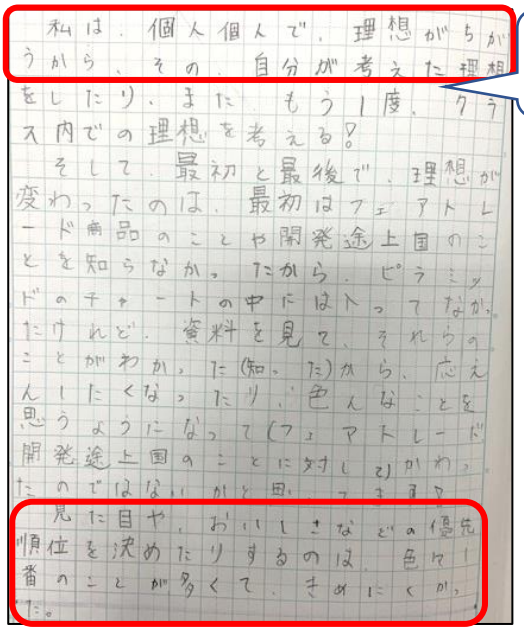
座席表 20 番
（ビデオ 12 番）
国のだけではなく，県や外国のことも考える消費が理想。



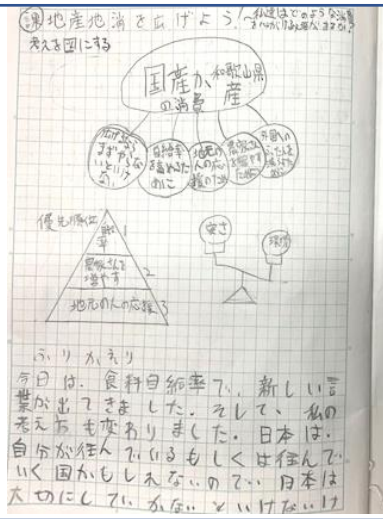
座席表 5 番
（ビデオ 19 番）
人を助ける消費，フェアトレードのことを考える消費をすると，時には外国産を買うことになる。

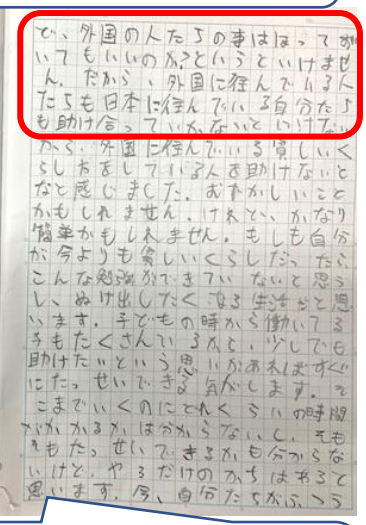
座席表 21 番
（ビデオ 1 番）
これを買うとどのような事があるのかなど，時と場合によって，優先は変わる。的確な判断が消費には大切。





座席表 25 番（ビデオ 18 番）
消費の理想は個人個人でちがう。優先順位を決めるのは難しい。





座席表 1 番（ビデオ 24 番）
日本のことを考える消費は大切だけど，外国の人のことを考えた消費も必要。

②単元の振り返り

座席表 12 番（ビデオ 22 番）の子どもの学び

番号	単元のはじめ（第１時）
２２	食料自給率のことを考える時に，はじめは輸入が止まったら困るとかしか考えていなかったけど，フードマイレージのことも考えるようになった。**地球の環境や人のこと，社会のことを考えて食料自給率について考えていかないといけない**と思った。私は，地球，人，社会を考えていろいろ買ったりしていきたいです。それで，少しでもいいから，自給率をあげていきたいです。
番号	海草振興局の方の話を聞いて（第２時）
２２	今日はいろいろなことを知れました。 例えば，**地産地消は，何も考えずに買うより，いい買い方**だとかです。私たちにできることは，地産地消とかなのでこれからもやっていきたいと思いました。
番号	前時（第４時）
２２	**地産地消は，農家を応援することになる**し，**耕作放棄地の問題を解消することにもなる**。その上，一人でも多く地産地消のことを知って，実行していけば地産地消が広がって自給率アップにもつながっていく。 でも，地産地消に協力しない人がいる。全員がしてくれるわけではない。今でも農家数が減っているのに，これ以上農家数を増やすことは難しい。こんな問題があると思う。 **地産地消を広げるために自分たちが気をつけないといけない消費の仕方を考えていきたい**。
番号	本時（第５時）
２２	はじめは，県産，国産，外国産の順で直感で言っていたけど，授業終わりは，国産，外国産，県産の順にすることができました。 なぜ，この順かというと，この順を一人一人考えられたら，それぞれの人の協力で開発途上国も助けられるし，耕作放棄地をなくすこともできるからです。だから，**別にこの順じゃなくても一人一人がエシカル消費に少しでもいいから協力していけば，いろいろな人に協力できて，いろいろな人と共有できて，いろいろな人を助けていくことができることがわかりました。だから，わたしもエシカル消費をしていきたい**です。
番号	単元のおわり（第９時）
２２	一人一人がいろいろな人（消費者，生産者，行政など）の事を思いやって（エシカル），行動し，農家数を増やすことが大切だと思いました。耕作放棄地が増えないように**一人一人が協力する。みんながつなげていくことが大切だ**と思います。 **みんなが協力**すると，農家数は増え，耕作放棄地が減り，食料自給率はアップし，次の世代につながる持続可能な社会ができると思います。

本時において，消費の仕方は、人それぞれで優先順位が違うけれど，一人一人が「エシカルな視点」を大切にして消費することは大切だということに気が付いた。そして，一人一人が少しでもいいからエシカルな視点で消費することで、総合的に人を助けていくことができるという気づきが生まれた点において省察性が働き、社会的事象を多角的にみることができるようになった様子が窺える。

座席表 22 番（ビデオ 26 番）の子どもの学び

番号	単元のはじめ
２６	**食料自給率は，高い方がいい**と思います。 外国との関係は大切だけど，食料自給率が低いと食べ物に困ったり，フードマイレージが高くなったりするからです。
番号	海草振興局の方の話を聞いて
２６	今日，私が思ったことは，地産地消をしている人は少ないということです。なぜかというと，地産地消をしている人に手を挙げた人はクラスの半分の人数にもいかなかったからです。私はお母さんに聞いてみると，日本産のものは買うけど，和歌山産は買う時と買わない時があると言っていました。私自身も日本産を買うことは意識していたけれど，和歌山産のもの（地産地消）を買うのは意識していなかったし，**食料自給率をあげるだけなら，日本産だったら何でもいい**と思っていたけれど，**和歌山産を買わないと和歌山の農家さんがどんどん減少していくことが分かった**から，○○県産を意識して買うことが大切だと思いました。**地産地消は，１人でできることではない**ので，家族や他の人（おじいちゃん，おばあちゃん）にも伝えたいです。
番号	前時（全４時）
２６	私は，**地産地消を心がけたい**です。でも，外国産のものを食べたいと思う人だっていると思います。私はできるだけ地産地消を心がけて，日本や和歌山で生産していないもの，あまり生産していないものは外国産を買うしかないと思うので，それはそうしたいです。もし，他の人に地産地消なんてしなくてもいいと言われた場合も考えておきたいです。 でも，**地産地消を広げていくための壁もあります**。安い外国産を買う人が多い，直売店が家の近くにない，日本産より外国産の方がおいしいと思う人もいる，和歌山産は（種類や量が）限られてくるなどです。
番号	本時（第５時）
２６	わたしの意見は，三角形のピラミッドにして考えて見ると，（下から）外国産，開発途上国産，県産，国産です。なぜかというと，県産はあまり売っているのが国産よりも少ないと思うし，**いろんな人がやりやすいのは，国産を買うことだ**と思うからです。まず，国産を買うことを意識したり，その次は県産，開発途上国産を買うことを心がけたり，１つずつレベルを上げていくほうがいいと思ったので，**身近にできるもの**だったら，国産をまず買うことだと思います。
番号	単元のおわり（第９時）
２６	わたしがこの学習で学んだことは，いろいろな立場があって，**その立場全部が必要で支え合っているということ**です。なぜ，そう思ったかというと，もちろん消費者は，生産者や販売者がいないと買うことができないし，生産者は行政の支えがないといけない場合があると思ったからです。**まとめると，消費者がものを買えるのは，その買うために必要なものが全部あり，支え合っているからこそ，こういうことができて，生活に必要なものが手に入るんだと思いました。だから，ありがたさを感じたいです。自分のことばっかり言わないようにすることで人や社会に役立つとわたしは思いました。**

本時において，自分以外の他者も含めていろんな人が地産地消をやりやすい消費の仕方は，県産を買うことではなく，より広い視野での国産を買うことであるという気づきが生まれている。そして，単元の終わりには生産者，販売者，行政など様々な立場の人が支え合っているからこそ，消費ができるという気づきが生まれた点において省察性が働き、社会的事象を多角的にみることができるようになった様子が窺える。

座席表３番（ビデオ 21 番）の子どもの学び

番号	単元のはじめ
２１	最初の意見は，自給率は高くする必要はないだったんだけど，意見が少し変わって理由は，まず変えたところは，少し高くした方がいいに変わって，自分の考えはあまり自給率は高くしなくてもいいという意見のままだけど，だからって，高くしたらダメかと言われるとなやんで，結果は，高くしなくてもいいだったら，**自分のため，日本や外国の食べ物のためには少し高くした方がいい**と思いました。
番号	海草振興局の方の話を聞いて（第２時）
２１	日本産を買わないと日本の農業をしている人がもうからなくなってやめてしまうと自給率はもっとさがってしまうから，日本はもっと輸入にたよる国になってしまうから**外国産より日本産を買うことを多くしたらいい**と思いました。日本では，気候にあったものをつくっているから，気候にあった場所でたくさんつくるといいと思いました。それを国内で食べると自給率アップにつながるのではないかと思いました。そのために**スーパーでも**国産を増やしたり，よくみんながいくところの中に**直売店**をつくったりするといいと思いました。
番号	前時（全４時）
２１	地産地消を広げていくときに**うまくいかないかべ**になるのは，買ってくれない，買っても買わなくても大きな問題はないと思っている，農家が少なくなり，県産が減っているなどがかべになると思います。 **和歌山県内でつくられているものは和歌山県産を買って，和歌山県でつくるのに適していないものは国内のを買ったり，日本でつくれないものは外国産を買わないとしょうがない**。 安いから外国産を買うという人には，そしたら，日本の農家を応援するのではなく，外国の農家を応援することになるから，自分たちの国の農業が進まないで輸入がストップしたら食べるものが少なくなり，なくなってしまうから応援して国内で増やすといいたいと思います。
番号	本時（第５時）
２１	みんなの意見がかわってきたのは，思いやりの心があるからだと思って，自分の国も守りたいけど，外国の人も助けてあげたいからかなと思いました。そして，どんな消費を心がけるかというとエシカル消費をするということで**国産，外国産，県産の中でももっとくわしい別れ方を見つけたことによって順位が変わった**のではないかなと思いました。自分の国だけではなく，開発途上国を助けたいという人もいるし，いろいろな人がいると思うけど，それぞれちがうけど，わたしは**難しい問題だ**と思って，それはみんな意見がちがったりしているからです。資料を見て，思ったことは，助けたり，守ったりすることは大切だと思いました。
番号	単元のおわり（第９時）
２１	ただ，国産，県産を買えばいいのではなく，例えば災害にあった地域のものを買うとその人々にお金が入って助かる。地産地消をしたらいいけど，みんながやってくれないとダメだからあまり広がらなさそう。わたしは**人を助ける消費がいい**と思いました。 この学習の最初は，別に外国産を買っても自分には関係ないし，困ることもないから国産はたまに買うけど，毎日買うまでにはいかなかった。授業をしているうちに輸入がストップしたときに３８パーセントの自給率では，国民をまかなえないということに気が付いてから，なるべく国産を買うようにしたり，農家が増えるようにいいところを考えたりして増やそうとしたりする消費をしようという気持ちに変わった。

本時において，消費については個々に様々な考えがあり，それぞれに消費の仕方がちがうために，エシカルな消費をすることは難しいということに気づいた。単元の終わりには，エシカルな消費の難しさを感じつつも，自分は「人を助ける消費」がいいと改めて考えを再構成している点において省察性が働き、社会的事象を多角的にみることができるようになった様子が窺える。